

令和3年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

事業実施報告書

- I スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び
- II マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成
- III スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築
- IV 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成
- V スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成

道府県・政令市名【 群馬県 】

学校名【 県立あさひ特別支援学校 】

1 実践テーマ	①・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ・⑤(複数選択可)
2 実施対象者 (学年・人数)	群馬県立あさひ特別支援学校 小学部3～6年 (5人) 中学部1～3年 (9人) 高等部1～3年 (25人)
3 展開の形式	(1) 学校における活動 ① 教科名(保健体育、特別活動) ② 行事名( ) ③ その他( ) (2) 地域における活動 ① イベント名( ) ② その他( 全国ボッチャ選抜甲子園 )
4 目標 (ねらい)	児童生徒のオリンピック・パラリンピックへの興味関心を向上させ、スポーツの価値への理解を深めるとともに、自ら挑戦しようとする心を育む。
5 取組内容	○保健体育 高等部準ずる課程と知的代替の教育課程の体育の授業では、豊かなスポーツライフスタイルの確立をねらいとして、東京パラリンピック2020のボッチャの試合映像を視聴した。「ボッチャだけでなくいろいろなスポーツに挑戦してみたい。」といった「する」ことに関心をもった感想や「スポーツは障害に関係なしにみんなが楽しめる。」や「選手の人たちが楽しそうだった。」「見ていてドキドキしました。」といった「みる」ことに関心をもった感想をもつ生徒が多くいた。 ボッチャチーム「Sun Rise」のメンバーの一人は「ボールを強く投げてジャックボールをはじめていた。」や「選手と器具の調整をしてくれる方のチームワークも大切だと思った。」といった感想をもち、戦略的視点やチームワークの重要性にも気づくことができた。



iPadを用いて、パラリンピックのライブ動画を観て学習する。

小学部知的代替の教育課程体育の授業では、パラリンピックのレガシーの一つである「パラ種目に興味関心をもつこと」と、「ボッチャをより深めること」をねらいとして、日本ボッチャ協会の方を講師に招いてボッチャ体験授業を行った。前半に、ボッチャの歴史やルールに関する動画を視聴した。視聴中に「え！？そうだったの。」「すごい。」という児童の姿が見られた。後半に投球練習やミニゲームを行った。新聞紙の上にボールを乗せる投球練習やミニゲームでは、「できるかな?」「よっしゃー。乗った。」「あー！おいしい。」と声を出したり、「いいねー!」と友達のショットに関心をもったりして取り組んでいた。ミニゲームが終わると、児童からは「えー！？もう終わり？もっとやりたかった。」という声が聞こえるほど充実した活動になった。振り返り時に、「もっと上手になりたい。」「世界を目指したい。」という児童の姿が見られ、パラ種目ボッチャに対する関心をとて高めることができた。



前半：ボッチャの歴史・ルールを学んだり、新聞紙の上にボールを乗せる練習に取り組んだりした。



後半：日本ボッチャ協会の方からボールの握り方や戦略を教わった。

中学部準ずる課程と知的代替の教育課程の体育の授業では、チームメイトと協力することやルール・安全を守ること、楽しく取り組むことをねらいとして、ボッチャの授業を行った。単元の前半では「ヒット」と「アプローチ」の技能を高めるために、ボッチャのボールを使ってボウリングやマス取りをした。後半ではチームに分かれてリーグ戦を行った。ナイスショットが出たときには大きな声で「やったー。」と声を上げる生徒がいた。「ボールに近づけられるように投げられた。」と技能の向上を感じられた生徒もいた。



「ヒット」練習のボウリング。

「アプローチ」練習のマス取りゲーム。



チームでリーグ戦に取り組み、チームメイトと声をかけ合いながら楽しくボッチャを行った。

### ○特別活動

小学部知的代替の教育課程では、1学期に「オリンピック・パラリンピックを知ろう、そしてやってみよう」と題して、オリンピック・パラリンピックの基礎知識や競技種目について学習した。競技種目の紹介ではダイジェスト映像を用いた。児童からは「すごい。」といった感想が聞くことができた。授業の後半では、パラリンピック競技種目「ゴールボール」を行った。児童は「新鮮で楽しかった。」や「難しかった。」と興味関心を高めることができた。




歴史や競技について映像や画像で学習後にゴールボールを体験した。

2学期に「スポーツの楽しみ方を知ろう」と題して、スポーツには「する」だけでなく「みる」「支える」等の方法があることを学習した。東京オリンピック・パラリンピック2020のボランティアに参加した教諭の体験談を聞き、「誰かを支えること＝ボランティア」について知った。「ありがとうの言葉を聞くとうれしくなる。」や（ボランティアの活動は）「サポート！」と答える様子が見られた。授業のまとめの時に「スポーツの楽しみ方には何がありますか？」と問うと、「する、みる、支える。」と答えることができた。「おじいちゃんやおばあちゃんの手伝いをする。」というボランティアの話に影響を受けた感想も聞くことができた。



東京オリンピック・パラリンピック2020に関するクイズに答えたり、ボランティアを経験した教員の話の聞いたりした。

	<p>○ボッチャチーム「Sun Rise」</p> <p>今年度は全国大会において準々決勝進出を目指して「Sun Rise」を結成した。今年度もコロナ禍のためリモートでの予選が行われた。12月1日から10日の間で課題に取り組み、一番良くできたものをボッチャ甲子園実行委員会に動画を提出した。10日間の長い撮影期間に幾度となく投げ直しをした。最後の一投まで諦めずに投げ抜き、48校中14位という素晴らしい結果に終わった（上位6校のみが本選に出場する）。本選に進むことはできなかったが、「諦めずに取り組んで良かった。」という声も聞くことができ、充実した学習の機会となった。</p> 
<p>6 主な成果</p>	<p>○東京パラリンピックのライブ映像や本校の教諭によるボランティア体験談を教材として扱ったことで、スポーツ観戦を楽しむことはもちろん、高いレベルの技術や戦略を学んだり、ボランティアの存在を知ったりと、スポーツは「する」だけでなく「みる」「支える」というかかわり方があることに気づいた。</p> <p>○高等部だけでなく中学部と小学部でもボッチャへの関心や投球技術を高められ、ボッチャを深めることができた。</p> <p>○パラリンピック種目を教材として扱ったことで「ボッチャだけでなくいろいろなスポーツに挑戦してみたい。」と、他のスポーツへの興味関心が高まった。</p>
<p>7 実践において工夫した点（事業の特色）</p>	<p>○継続的に取り組んできたボッチャを主な教材としたことで、パラリンピックへの興味関心が高まりやすくなるようにした。</p> <p>○日本ボッチャ協会の講師を招き、より専門の人の指導を受けられるようにした。</p> <p>○東京パラリンピックが開催された年であることから、東京パラリンピックの試合（ライブ）映像を教材に扱った。</p>
<p>8 主な課題等</p>	<p>○コロナ禍であるため、一度に多くの児童生徒・職員を集めることはできないが、動画を撮影しておき、後日視聴できる環境を整えれば当日参加できない児童生徒・職員にも内容を伝えられる。</p> <p>○東京オリンピック・パラリンピックのレガシーとして、児童生徒がオリパラ種目への興味関心を高めたり、挑戦したりする機会を多く提供できるように、取り組み内容を柔軟に検討し、計画する必要がある。</p>
<p>9 来年度以降の実施予定</p>	<p>○来年度もボッチャの活動は継続する予定である。体育の授業ではボッチャに加えて、ゴールボールやシッティングバレーボールなどのパラリンピック種目にも取り組んでいきたい。</p> <p>○コロナ禍にあり、学部を超えて児童生徒が集まるのが難しい状況であるが、リモートで競技を行える環境を整えて、スポーツを通して児童生徒間の交流を深められる学習を進めたい。</p>